

ウクライナ侵略戦争以降、世界が最も注目するセルゲイ・ロズニツァ監督作品

彼らが見ているのは “自由”の始まりだったのか？



1991年8月19日。ペレストロイカに反対する共産党保守派がゴルバチョフ大統領を軟禁し軍事クーデターを宣言した。テレビはニュース速報の代わりにチャイコフスキーの「白鳥の湖」を全土に流し、モスクワで起きた緊急事態にレニングラードは困惑した市民で溢れかえった。夜の街では男がギターを掻き鳴らしウラジーミル・ヴィソツキーの「新時代の歌」を歌い、ラジオからはヴィクトル・ツォイの「変化」が流れた。自由を叫んだ祖国のロックが鳴り響くレニングラードは解放区の様相を呈し、8万人が集まった宮殿広場でついに人々は共産党支配との決別を決意する——。本作品はレニングラードの8名のカメラマンが混乱する市中に紛れ撮影した映像をセルゲイ・ロズニツァが手にし、3日間で終わった「ソ連8月クーデター」に揺れながらもロシアの自由のため立ち上がったレニングラードを再構成する。



それぞれにとっての1991年の夏

本作品の映像はアレクサンドル・ソクーロフの製作や後にロズニツァも所属し初期作品を制作した事で知られるレニングラード・ドキュメンタリー映画スタジオの8名のカメラマンがモノクロフィルムで撮影した映像である。ロズニツァはクーデターが起きた1991年8月、数学者から映画監督へ転進する準備をしながらキーウでこの出来事を見つめたという。25年の時を経てロズニツァは変化を遂げようとするレニングラードを懸命に記録した同窓の意を受け取り、それぞれの想いを込め1991年夏のレニングラードを映画にした。

アーカイブ映画

過去の呼びかけが現代に問いかけること

レニングラード市長のアナトリー・サブチャークはモスクワのホワイトハウスで市民と共に反クーデターを訴えるエリツィンを支持し、レニングラードの各所で開かれた集会やラジオ放送で市民にクーデターへの抵抗を訴える。そんな躍動するサブチャークを追っていたカメラに映り込んだ若かりしウラジーミル・プーチンの姿をロズニツァは逃さなかった——。ロシアの民主化に熱狂する大群衆の中、「苦しみ多きわが国民よ、騙されるな!」と書いたプラカードを掲げた女性がスクリーン越しの私たちに問いかける。

www.sunny-film.com/theevent   [sergeiloiznitsa](https://www.facebook.com/sergeiloiznitsa)

1.21 土ロードショー

「リトアニア独立運動」と「ソ連8月クーデター」ソ連崩壊とロシアの始まりをロズニツァ作品で観る
『ミスター・ランズベルグス』半券提示で『新生ロシア1991』の当日券から200円引き
当日一般1800円／学生・シニア1300円／会員1200円

[シアター]
イメージフォーラム

03(5766)0114

<http://www.imageforum.co.jp>

[全席指定席・オンライン予約有]



自由と変化を求めた
1991年レニングラードの夏



新生
THE EVENT
ロシア
1991

監督：セルゲイ・ロズニツァ 2015年 | 70分 | ベルギー＝オランダ製作 | ロシア語 | 4:3 | 日本語字幕：守屋愛 配給：サニーフィルム

Sound Designer VLADIMIR GOLOVNITSKI Editors SERGEI LOZNITSA, DANIELIUS KOKANAUSKIS Co-producer NICOLA MAZZANTI Producers SERGEI LOZNITSA, MARIA CHOUSTOVA-BAKER
Directed by SERGEI LOZNITSA Supported by NETHERLANDS FILM FUND, SUNDANCE INSTITUTE DOCUMENTARY FILM PROGRAM

世界を揺るがした「ソ連8月クーデター」——新生ロシア誕生の瞬間を目撃する
異才セルゲイ・ロズニツァが映し出す、ロシアの光と闇